

春号

多賀

No.63

令和2年3月1日発行



四月から九月の祭事暦

四月

- 神武天皇祭遙拝 四月 三日(金)
- 御使殿大御供式 四月 十二日(日)
- 馬頭人大御供式 四月 十八日(土)
- 宵宮祭 四月 二十一日(火)

●古例大祭

四月二十二日(水)

- 後宴祭 四月 二十三日(木)
- 昭和祭 四月 二十九日(水)

五月

- 喜寿薙寿祭 五月 十二日(火)
- 米寿薙寿祭 五月 二十三日(土)

六月

- 御田植祭 六月 七日(日)
- 崇敬会薙寿大祭 六月 十三日(土)
- 六月古例祭 六月 三十日(火)
- 夏越大祓式 六月 三十日(火)

七月

- 九月頭人差定式 七月 一日(水)
- 金婚薙寿祭 七月 四日(土)

八月

- 万灯祭 八月三・四・五日(月・火・水)

九月

- 九月古例祭 九月 九日(水)
- 傘寿薙寿祭 九月 十六日(水)
- 抜穂祭 九月 二十日(日)
- 秋季皇霊祭遙拝 九月 二十二日(火)
- 池坊献華式 九月 二十七日(日)
- 講社大祭 九月 二十八日(月)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- おついたち参り 元日を除く毎月一日の午前七時より
- 月次祭 元日を除く毎月一日・十五日

古例大祭

四月
二十二日

令和二年一月三日、古例大祭の主役を務める馬頭人と御使殿が差定式にて差符を受け、その大役が決まりました。
古例大祭は年間の祭典の中で最も重要な祭儀であり、鎌倉時代より現代に至るまで古式に則り継承されています。
「多賀まつり」「馬まつり」とも呼ばれ時代衣装を身にまとった大行列や騎馬供奉四十頭、総勢五百名の絢爛豪華な時代絵巻が多賀の町に繰り広げられます。



古例大祭諸儀

- 一月 三日 御使殿馬頭人差定式・馬頭人初社参式
- 四月 五日 御使殿御湯式・御使殿御注連張式並御神入式
- 十一日 馬頭人御注連張式並御神入式
- 十二日 御使殿御湯式・御使殿大御供式・御使殿胡宮参向
- 十八日 馬頭人大御供式
- 二十一日 御使殿御湯式・宵宮祭・胡宮神社神輿参社式
- 二十二日 古例大祭
- 二十三日 後宴祭
- 二十六日 馬頭人御神上式並御注連上式
御使殿御神上式並御注連上式

馬頭人



木村 泰造 氏

昭和25年1月21日生（69歳）

- ・住所 彦根市後三条町
- ・現職 木村水産株式会社 代表取締役会長

御使殿



曾我 巧 氏

平成14年7月16日生（17歳）

- ・住所 犬上郡多賀町土田
- ・彦根工業高校二年生

※令和2年1月現在

大嘗祭 奉祝行事

天皇陛下御即位を祝し、令和元年十一月十四日大嘗祭当日祭に合わせて奉祝行事を執り行いました。

午前十一時大嘗祭当日祭には、崇敬者約百名ご参列のもと斎行し、皇室の弥栄と国家平安五穀豊穰を祈願申し上げました。



講演会には当社で平成五年から十年間多賀創世塾の塾頭をおつとめいただきました小田全宏先生を招聘し『天皇陛下と大嘗祭』についてご講演いただきました。



十月より御大典奉祝の記帳所を開設しましたところ、多くの参拝者より御祝意をいただき、この記帳は神社庁を通して宮内庁へお届けいたしました。

祈年祭 (豊年講春季大祭)

三月十七日、今年の豊作を祈る祈年祭を斎行いたします。今年には県下約二万六千人の豊年講員を代表して近江八幡市安土地区大世話の木俣幾和様に祈年使をご奉仕いただきます。

豊年講春季大祭祈年使を奉仕するにあたり



此の度は豊年講員を代表し祈年使の大役を仰せつかり身に余る名誉な事と心身共に恐縮しております。

祈年使 木俣 幾和
きまた いくかず

回顧すれば前任者より大世話係の大任を引き継ぎ、今年で二十一年目を迎えていただきました。豊年講は父の代より二代に亘りご奉仕しております。これも偏にお多賀さんとのご神縁と豊年講員皆様とのご縁と厚く感謝申し上げます。

過去には大病を患う事がありましたが、お陰様でその後の経過も良く元気に生活を送っています。地元では皆様のご協力を得ながらPTA会長・寺社総代・区長・民生委員・老人クラブ会長等の役職に就かせていただきました。

今年の祈年使奉仕を期に、より一層の御加護をいただき豊年講員・地域住民皆様の健康を願い、子供達から高齢者が明るく幸せな生活を送れるように、その一手を担っていく所存でございます。

就任のご挨拶



権宮司 稲毛 友幸
いなが ともゆき

このたび、令和元年十月二十五日付をもちまして神社本庁より多賀大社権宮司を拝命いたしました。

素より浅学菲才の身にして、その職責の重大さを痛感しております。

この上は、祭祀の厳修はもとより、職員ともども宮司様を補佐申し上げながら、御神徳の宣揚と神明奉仕に一意専心精進いたす所存でございます。多賀信仰の歴史と伝統は、時代を越えて人々の心に受け継がれ、今日まで大切に護られてまいりました。今こそ先人の教えに思いをいたすとともに、氏子崇敬者各位のお力添えをいただきながら、新しい令和の御代にふさわしい、お多賀さんの歩む道を模索していければと思っております。

皆様方には、今後ともよろしくご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。権宮司就任のご挨拶とさせていただきます。

多賀の祭りを 支えた人びと

第2回

琵琶湖博物館 主任学芸員
渡部 圭一(わたなべ けいいち)
昭和五十五年愛媛県生まれ。
筑波大学大学院人文社会科学研究所、
早稲田大学人間科学学術院助手等
を経て現職。

一、差符という文書

中世前期ころ(十二世紀～十三世紀半ば)の日本列島には、頭役祭祀と呼ばれる古い祭りが数多くみられた。頭役祭祀とは、寺社が地域社会の側から頭人を選び、これを任命(差定)するという形の祭りを意味する。さきに述べたとおり、日本各地の頭役祭祀は中世後期から近世には衰退の一途をたどることになるが、多賀大社にはこの古い祭りの伝統が脈々と息づいている。それを端的に示しているのが、差定を伝達する文書、すなわち「差符」の存在である。

差符の一例は写真1のとおりである。四月の古例大祭では馬頭人と御使殿の両名が差定をうける。表題にあたる部分にその役割の名が書かれ、末尾には差定の主体として神職の署名がある。本文の「神慮に任せ」とは、頭人の差し定めが神意によることを意味する。実際、昭和三十年代の記録では、馬頭人と御

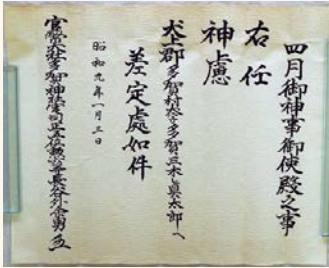


写真1 差符の一例

使殿は三名の候補者を選んだなかから神前で玉籤によって決定していたという(西村為示「多賀大社の馬頭人」『多賀大社叢書論説篇』三四～三八ページ)。



写真2 神職が馬頭人に差符を渡す

現在の古例大祭の差定式は、正月三日に神社で斎行される。筆者が拝見した二〇一六年の差定式をもとにその進行を述べてみよう。手水と修祓をすませた一同が所定の座につくと、宮司一拝、献饌、祝詞奏上、玉串拝礼、神酒拝戴、神楽、馬頭人らによる拍手、宮司一拝と神事が進んでいく。この間、祝詞のあとで、神前におかれていた差符を神職が手にとり、起立した馬頭人の前に進み、口上を述べて差符を手渡すことをする(写真2)。馬頭人のあとには御使殿に対して同じ所作がある。

差符は、枝ぶりのよい榊の枝に紙縫りで結ばれ、包紙ウハ書は「差符一」(御使殿の差符)、「差符二」(馬頭人の差符)と区別されている。神事のあと、大広間での

盛大な直会を終え、参集殿を出る馬頭人と御使殿が一同が万歳で見送るが、このときにも付添人の手には差符の榊がしっかりと捧持されている。これを頭人の自宅に持ち帰り、床の間などに飾って四月の祭りへの第一歩を踏み出すのである(写真3)。



写真3 馬頭人宅に飾られた差符

旧犬上郡域の旧家の古文書には、しばしば多賀大社の差符が含まれている事例があると聞く。大書された「神慮」の文字の厳かさや大ぶりで豪華な料紙は、厳粛な授与の儀礼に劣らず、差定する神社の側の権威を雄弁に物語るものだ。これが家の歴史を物語る遺品として長く保管され、伝世していることも頷ける。中世にさかのぼる伝統をもつ差符の儀礼を、これほどありありと今日に伝えるケースは全国的にみても稀である。

二、近世の差定の儀礼

さかのぼって江戸時代には、差符を受けるときの作法とはどのようなものだったのだろうか。ここで参考になるのが、『多賀町史』別巻に掲載された、「多賀御神事諸式控帳」(以下、控帳)と題された史料である。書き手は敏満寺村の山本喜右衛門で、天保十一年(一八四〇)に馬頭人を勤めた人物である。敏満寺村は、この時期まではかなり頻繁に頭人を輩出しており、多賀の祭りを支える拠点のひとつというべき村であった。

控帳は日記の形式で、この年の正月三日に始まり、四

月二十五日で終わっている。何日に、どこでどのような行事があり、誰が参加したか。どういう準備をしたか、どのようなメニューの酒・肴を出したか、誰にどのような贈り物をしたかが克明に記録されている。家の威信をかけた一世一代の晴れ舞台を書き留め、あるいはつぎに子孫が頭人を受けたときの参考に供しようとした可能性もある。日記の冒頭にはつぎのようにある。

多賀大社馬頭御神事指来候、其時ニ台所より座敷迄筵をしき頭人上下ヲ着シ門口ヲ明ケ内へ被入候、天より頭人座敷へ出挨拶致候、差封相渡し被申相改受納仕候（後略）

当時の差定式は頭人の自宅で行われた。馬頭人を差しに来たというので、台所から座敷まで筵を敷き渡し、本人は袴をつけて神職たちを座敷へ案内する。このときの神社側のメンバーは、禰宜衆三人、沙汰人二人、ほかに手伝いが八〜九人とある。頭人が座敷に出て挨拶を言上すると、神社側が「差封」を渡す。差封とはもちろん差符のことである。「相改」とあるので、包紙を開いて頭人が文面を読んでいることがわかる。

三、馬頭人の日記を読む

その後のことにも触れておこう。祭り当日を迎えるまでの頭人の記録を整理してみた（表）。まず正月五日には「神酒ひろめ」として、村中から一軒一人ずつを招待している。頭人を受けたことを報告したのであろう。二十三日の世話方衆寄り、翌月二日の親類寄りは、祭礼で協力を仰ぐ人々との打ち合わせである。四月に入れば八日に七五三張り、十三日に御神入式、十八日の大御供式と重要な行事が続く。目を引くのは、これら一連の行事がつねに酒飯の饗応をともなっていることである。

たとえば四月十三日の御神入式では、夕飯として、神

表 敏満寺村喜右衛門による馬頭人勤仕の日記

期日	行事名		会場	饗応	参列者
1月3日	多賀大社馬頭御神事指来		頭人自宅	有	禰宜衆3人、 両沙汰人2人、 下部8～9人
1月5日	神酒ひろめ		(頭人自宅)	有	村中家並み 1人ずつ
1月23日	世話方衆寄り		(頭人自宅)	有	世話方5人、 村役人2人
2月2日	親類寄り		(頭人自宅)	有	親類17人
2月9日	初午多賀へ参詣之事			—	—
3月25日	注連張より神上ヶ迄吉日相定候事		(頭人自宅)	有	両沙汰人2人
4月8日	七五三張り、神小屋の設置		(頭人自宅)	有	禰宜衆2人、両沙汰 人2人、大箸師1人、 下部4人、他に親類 4～5人
4月13日	御神入式	多賀より朝本膳振舞	—	有	頭人夫婦、健児
		(休足宿での饗応)	休足宿	有	—
		(下部宿での饗応)	下部宿	有	—
		夕飯此方より之振舞	—	有	多賀より45人、 健児1人
		跡呼び	休足宿	有	村方、他所、親類出 入りの取持人共、 計260～270人前
4月18日	大御供式	昼飯	(宿)	有	200人ばかり
		夕飯	(宿)	有	200人ばかり
4月22日	祭礼当日	(昼飯)	①休足宿	有	御代官元々衆2人、 世話方衆5人
			②頭人馬宿	有	7人
			③広馬宿	有	30人
			④小馬宿	有	20人
			⑤炭取宿	有	25人
			⑥同人足宿	有	25人
			⑦喜八宿	有	100人
			⑧もししり方宿	有	45人
			⑨頭人附休足宿	有	150～160人
		当日夕飯	⑨頭人附休足宿	有	人数記載欠 (御馬附人足衆)
(当日夕飯)	(宿)	有	駕籠人足5人、 村方頭人附・ 取持人・諸人足 120～130人ばかり		
4月25日	七五三上げ	朝	(頭人自宅)	有	多賀より21人
		本膳	—	有	—
		後座呼び	—	有	人数70～80人ばかり

『多賀町史』別巻収録の「多賀御神事諸式控帳」により作成。行事名は原史料によったが、一部表現を修正した。各欄の情報のうち、筆者の推定によるものは（ ）を付し、該当記載を欠く場合は一とした。

社側からの来賓四十五名に対して頭人から本膳の料理を差し上げ、ついで「跡呼」（いわば宴会第二部）として会場をかえ、敏満寺村の住民とそれ以外の人々、ほかに取持人を頼んだ親類などを含む「式百六七拾人前」の宴会がもたれている。つづく大御供式では、昼飯と夕飯をそれぞれ「式百人計」にふるまっている。招待客の明記はないが、やはり村の住民や親類の人々であったと推定される。

四月二十二日の当日は庄巻だ。合計九か所に「宿」が設けられ、同時並行で昼飯の饗応が行われる。領主側の代官を招く宿から、寺を借りて一〇〇名もの客にふるまいをする宿まで、その規模はさまざま。人々に供された料理は、この一日だけで少なくとも五三〇人前、期間全

体では約一四〇〇人前と、まさに想像を絶する大宴会の連続である。振る舞いには多賀大社の関係者に対するものもあるが、多くは頭人から村や親類の人々に供されている。

「控帳」は神社側の記録ではないので、祭礼の内容に関する記述は多くはない。むしろ宴会と贈答の記事で大部分が埋め尽くされている。紙幅の都合上省略したが、日記には行事ごと、また宿ごとの豪華な献立が詳しく記録されている。頭人として書き留め、ぜひ書き伝えるべきことからは、そうした地域社会における交際に関する事柄だったわけである。村の頭人にとって、多賀大社の祭りは同時に地域の祭りとしての意味をもっていたことを如実に物語っている。

節分祭

福は内!
鬼は外!

二月三日、恒例の節分祭が斎行されました。
福豆まき・福もちまきは、めでたく還暦を迎えた一四〇名の年男・年女が
ご奉仕されました。

奉仕者ご芳名(順不同・敬称略)

◆愛荘町

岡部 得晴

岡部 勲

岡部 透

◆長浜市

富岡 秀樹

宮村 弘明

廣部 正淑

藤居 茂博

◆大津市

森 秀行

井上 哲孝

村岡 孝浩

田邊 勇次

福永久美子

◆近江八幡市

北居 久治

森田 和幸

中村 浩三

下村 卓也

鈴木 茂

◆甲賀市

岩崎 外一

竹鼻 正純

中川 嘉隆

◆甲賀市

柴田貞一郎

草野 和浩

中川 実

新川 由基

寺本 正雄

小川 洋一

嶋寺 源一

杉江 宏之

佐野 勝治

角田 巖

多賀 正和

土田 幸男

樋口 孝彦

福本 康雄

辻井 直人

饗場 嘉治

植野 栄作

坂本 周之

杉山 充紀

宇野 恵士

小川 泉

福永 保

八上弥一郎

小林 吉隆

川村 誠

平居孝太郎

金澤 彦行

板谷 豊和

藤井 雅明

横田 正

片桐 誠人

栗原 浩二

福田 正司

福田千鶴子

宮崎信一郎

小谷 永富

野村 真春

野村由里子

片山 博之

江波 義成

森 清隆

泉 久寿

中島 庄衛

伊吹 誠

西川 清和

杉田 真人

多賀 寛男

虎山 勸

竹内 和代

石原 幸一

橋本 治雄

◆東近江市

大辻喜美世

大橋 清和

大橋 一美

大橋 源一

大橋美千代

大辻 浩子

辻 さとみ

桂田 依子

原田 悦子

高川 典久

高川 好子

奥村 浩

川原崎 司

北澤 丈浩

村井 敏枝

中嶋 忠史

伊関 新一

中村 一昭

岡村 憲一

山本 重和

平塚 聡

安居 富三

稲毛 友幸

山本 晃司

木村 徹

辻村 利明

岡田 典子

◆日野町

安田 寛次

◆米原市

中山 義彦

中山 和子

川邊 正茂

高畑 徹

高畑 正広

安田 淳子

高井 徹

高井 浩子

森田喜与一

奥村 初代

増倉 育子

市岡 文明

川北 徳孝

石田 博昭

◆岐阜県

福井 浩美

竹山 清

谷村 久

谷村 峰子

辻澤 明秀

市岡 文明

川北 徳孝

石田 博昭

高畑 徹

高畑 正広

高畑 浩美

高畑 正広

高畑 浩美

高畑 正広

高畑 浩美

高畑 正広

高畑 浩美

高畑 正広

◆御礼

福豆奉納
鬼神楽奉納

神崎 治
因原神楽団



金咲稲荷神社鳥居奉納

昨年十二月、金咲稲荷神社をご崇敬されている方より鳥居の奉納がございました。
ご篤志に感謝申し上げ、此処にご紹介させていただきます。

彦根市 株式会社トキワ・ホーム

代表取締役会長 堀 常一氏

多賀大社にて師走の大祓で罪とけがれを清め新年を迎える。夏には夏越の大祓式。そして金咲稲荷神社にて一時を過ごす。私の欠かせない恒例行事でございます。

このたびこの金咲稲荷神社鳥居の奉納をさせていただきましたこと心より感謝申し上げます。

犬上郡豊郷町・彦根市にて(株)トキワ・ホームという不動産・建築の会社を営んでおります。

「家を建てる」とは、一生に一度の大きなイベントです。方角はもちろん大安吉日など最も縁起を大切に考えます。先祖代々譲り受けた土地。子や孫達に残してあげる家づくりとは幸せづくりのお手伝いをさせていただいているのです。起業から30年。私自身、子や孫ができ歳を重ねるごとに、このようなお手伝いをさせていただいている事が幸せであり、また日々感謝の気持ちが増すばかりでございます。3年越しにいただいた鳥居の奉納が叶い、感謝の気持ちと共に心清らかに今後とも、皆様の幸せづくりのお手伝いができれば幸いです。



金咲（かねさき）稲荷神社 稲荷鳥居並びに幟旗ご寄進について

毎年例祭日の十一月八日には、全国より沢山の金咲稲荷神社講の参拝者をいただき、祭典をご奉仕申し上げて居ります。社名由来の通り、商売繁盛、子孫繁栄、五穀豊穡のご神徳を有し、境内東側の森陰に四季の風情豊かな稲荷参道に入ると、赤の奉納幟と稲荷の朱鳥居が眩く建立設置されています。滋賀県内外の、敬神家によるご奉納が多く、只今ご寄進も承っております。

詳細は、多賀大社 祭儀部までお問い合わせください。

甲賀市 某氏

この度、素晴らしいご縁を頂き金咲稲荷神社に鳥居を奉納させて頂きました。

両親が生まれ育ったこの地で、昭和、平成を生き抜き、令和という新しい時代が始まったこの年に、今まで生きてきた証を残せるようなことが出来たこと、この上なく嬉しく思っております。お世話になった皆様に厚く御礼申し上げます。決して裕福な暮らしをして来たわけではございませんが、鳥居の奉納はかねてから強い思いを持っておりました。お宮参り、七五三、兄弟の結婚などの節目や、思うように事が進まないと思うときにはお参りをさせて頂いて、前向きになっているように思います。そして寿命石に何にも代えたいのが、電車となり、車となり、時代とともに手段は変わりましたが、その道中もまた、家族にとつてかけがえのない時間だったように思います。

これからもいのちの神様として、多くの皆様とその素晴らしさが伝わることを祈念しております。

御祈祷控殿ロビー テレビ奉納

去る令和元年十二月二十五日彦根市の共同電気株式会社様より、テレビ一台をご奉納いただきました。

このテレビは御祈祷控殿内待合ロビーに設置し、今後当社の広報活動や御祈祷の待ち時間の合間に皆様にご覧いただけますよう大切に活用させていただきます。



境内紹介 9 能舞殿（のうぶでん）



境内東側に能舞殿があります。毎年、一月三日には大蔵流狂言茂山社中・観世流能楽片山社中による奉納があり、当社ではそれを翁始式と呼び、例年一月三日には多くの方が拝観（無料）に來られます。この能舞殿は明治四十年に再建されたものです。

イベント開催のご案内

ウェディング見学会 要予約

- 日 時
令和2年5月17日(日)午前10時～午後5時
- イベント内容
模擬挙式・試食会&模擬披露宴・ケーキ試食
衣裳展示&試着・会場コーディネート・
ウェディング相談会

ウェディングフェア 予約不要

- 日 時
令和2年7月19日(日)午前10時～午後5時

夫婦の神様に誓う
厳かな結婚式

緑あふれる神聖な多賀の杜は、
四季折々の風情が
お二人をやさしく包みます。
参集殿の披露宴会場では
特別なひとときをお過ごし頂けます。
一生に一度の婚儀が美しい思い出として
末永く心に刻まれますように・・・

お申込み・お問合せは
多賀大社参集殿まで

参集殿直通

0749-48-1103

参集殿HP

多賀大社参集殿

検索



Instagram

#多賀大社参集殿



期 間 令和二年五月三日(日)～六日(水)まで
午前九時～午後四時

拝観料 お一人様 五〇〇円(庭園・宝物拝観)

三十六歌仙絵特別展のご案内

※事前のご予約が必要です。
お電話でお問い合わせ下さい。



延寿祭のご案内

金 婚	米 寿	傘 寿	喜 寿	古 稀	年 齢	該 当 年	祭 典 日
結婚50年	88歳	80歳	77歳	70歳			
昭和46年に 結婚されたご夫婦	昭和8年生	昭和16年生	昭和19年生	昭和26年生			
7月4日(土)	5月23日(土)	9月16日(水)	5月12日(火)	3月25日(水)			

湖国の風物詩『万灯祭』

八月三日(月)～五日(水)

提灯は奉納者氏名を記して掲げられます

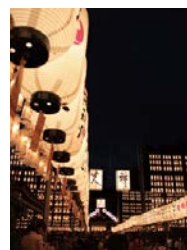
(会社・法人名でも承ります)

特別献灯料

(大)二万円(中)一万円(小)七千円

普通献灯料

(大)三千円(小)千五百円



人事

就 任

【権 宮 司】稲毛 友幸 (令和元年 十月二十五日付)

退 職

【舞女兼事務員】小西 香奈 (令和元年 十二月十五日付)

編集後記

令和二年春を迎えました。昨年は新しい御代を迎え全国各地で奉祝行事が行われました。令和は英語でbeautiful harmony(ビューティフル ハーモニー・美しい調和)と訳されます。今年は東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催されます。再生の春を迎えた今、美しく穏やかな心を再確認し調和をもてる日本の良さを次代へと継承していきましょう。

社報多賀No.63をお届けいたします。

【表紙写真】

©多賀観光協会 (多賀八景フォトコンテストより)

奥居由紀夫氏『春の古例大祭』